

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.49 夏



セミナー「低炭素な地域を作る＝元気な地域を作る」を開催しました
(関連記事p.2,3)



ハーブ湯のお風呂/リフレかやの里 (関連記事p.4,5)



総会を開催しました (関連記事p.8)



c o n t e n t s

- 2・3 **特集**
総会関連セミナー
「低炭素な地域を作る＝元気な地域を作る」
- 4・5 **福祉＋コスト削減＋地元の農林資源活用**
＝いつのまにか低炭素
リフレかやの里の事例
- 6 第7期
地球温暖化防止活動推進員
府内各地で活躍中！part10
「省エネナビで電力の見える化。電気使用量10%削減」
「効果があった省エネ術を、多くの人に伝えたい」
- 7 今年もみんなで一緒に取り組みましょう！
夏休み省エネチャレンジ
エネルギー**工作**教室を開催します
- 8 **使ってください！貸出しグッズ**
総会を開催しました



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

「低炭素な地域を作る＝元気な地域を作る」

意識調査の結果、温暖化対策を「生活の質を高めるもの」と捉える日本人は少数派であるのに対し、世界では多数派であることがわかっています。「温暖化対策が生活の質を高める」とは、具体的にはどういうことなのでしょう。そのイメージを共有するため、この分野を研究されている平岡先生をお招きしてお話をいただきました。



平岡俊一氏

北海道教育大学教育学部釧路校 准教授

(※第1期京都府地球温暖化防止活動推進員)

霧多布湿原ナショナルトラストとの出会い

京都から釧路に移住し、霧多布湿原ナショナルトラストの活動に参加するようになりました。参加する前は、湿原の買取・保全だけを行っている団体かなと思っていたのですが、実際は違いました。エコツアー、地域づくり活動への支援、文化イベントの開催など、魅力あるまちづくりの活動も同時に行われていたのです。団体の姿勢は、事務局長であった伊東俊和さんの「活動の目的は、単に自然を残すことではなく、そのことを住みやすい町づくりに結びつけていくことだ。・・・環境の保全は町づくりの一形態と言えないだろうか」によく現れていると思います。私はこの言葉に大変感銘を受けました。そして、そこから「湿原の保全」を「低炭素」や「温暖化防止」に言い換えることができるのではないかと考えるようになりました。

温暖化対策を通じて地域課題を解決する

地球温暖化問題は、地域のあらゆる活動と密接に関係しています。だからこそ、温暖化対策は、様々な地域課題の解決、地域の魅力向上にも繋がられる可能性があります。例えば、再生可能エネルギーの利用は農林業の活性化につながりますし、防災の視点でも有益で

す。コンパクトシティ化や公共交通の充実、中心市街地活性化策や福祉政策そのものです。住宅の高断熱・省エネ化は、住宅産業の活性化の取組でもあり、ヒートショックから命を守る取組でもあります。

欧州では、2000年代初頭から、低所得者支援や雇用作りのために省エネアドバイスや省エネの改修を行う事業が行われています。低所得者の住居に断熱改修を行うことで、住環境改善を行い、光熱費を抑えることができ、ひいては温暖化対策にもなるのです。低所得者対策と温暖化対策を組み合わせた政策は、日本ではまだ広がっていないように思います。

日本での自治体の取り組み例

北海道下川町は、釧路山の閉山によって人口が激減した地域です。町は唯一の産業ともいえる林業に着目し「持続可能な循環型林業経営」を町づくりの基軸に据えました。今では、公共施設の6割に木質バイオマスボイラーによる熱供給システムが導入されています。結果、燃料費を年間1,500万円ほど節約することができ、そのお金を子育て支援に使われています。

人口減少により生活インフラと除雪作業の範囲を維持できなくなる中、集住のための町営住宅がつくられ、木質チップボイラーによる地域熱供給が行われています。さらにしいたけ栽培の仕事がつくられ、住居に隣接したコミュニティ・カフェも作られました。

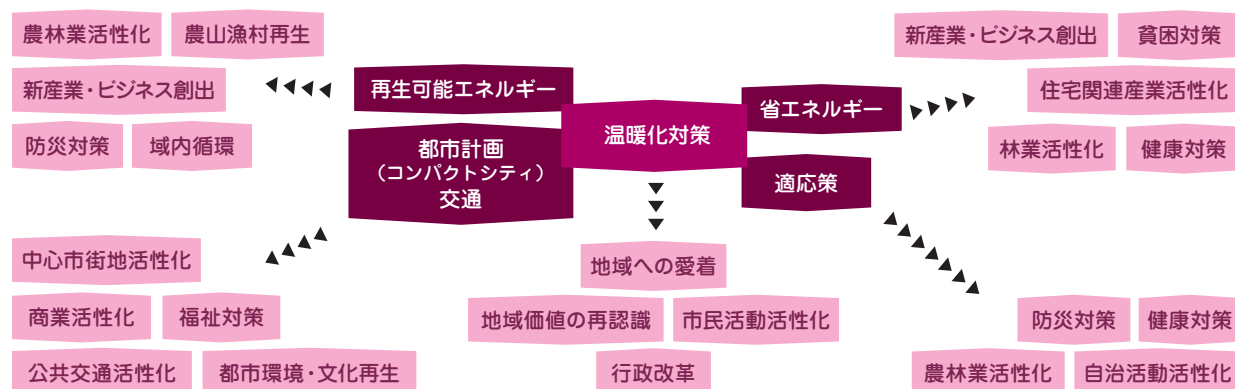


図 温暖化対策と地域づくりの関連性

これらの取組が、新たな地域コミュニティや雇用を生み出し、人口減少に歯止めがかかってきました。

■ 日本で市民ベースでの取組例

徳島地域エネルギーでは、1口1万円の寄付を募って太陽光発電を建設し、県内の他団体と連携して、地域の特産物を寄付者に送ることでお返しをしています。

私も、徳島地域エネルギーの動きを真似て釧路で同様の取組を開始しました。この事業を進める中で印象的だったのは、地元の観光協会が積極的に参加してくださったことです。日本全国の寄付者と直接つながることができ、地元特産品を紹介できるこの取組は、観光協会にとっても魅力のあるものだったのです。単に温暖化対策だけを前面に出すのではなく、地域課題解決と温暖化対策を関連付ける面白さがここにあります。

■ オーストリアの山間部の取組例

様々な地域を調査する中、私が最も強い印象を受けたのは、オーストリアの最西端に位置するフォーアールベルグ州の村々です。人口1000人前後の小さな村が連なるこの地域では、互いに連携しながら魅力的な村づくりが行われています。

例えば、公共交通機関から徒歩15分以上の場所には新規の建築物を建てられないようにし、意識的に村の中心部を形成しています。中心部には、カフェ、バー、銀行などが入る複合施設を作っています。図書館やサ

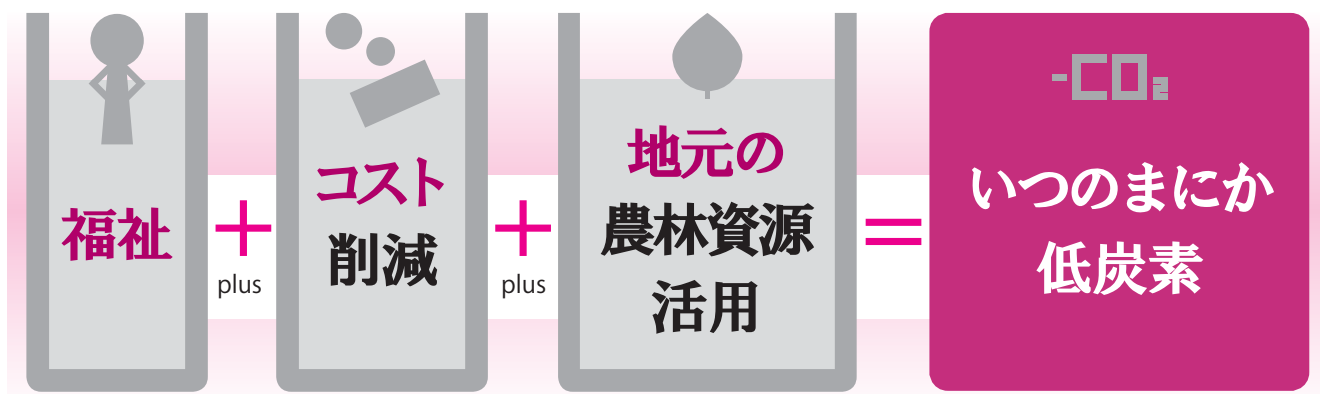
ッカーグラウンド、合奏室、商店なども整備して村の生活の質の向上を図るとともに、建築物に地元の木材を使用することで産業育成にもつなげています。すでに多くの事業所や家庭が木質バイオマスによる給湯・暖房を導入しています。

大企業誘致に頼ること無く、この20年間で着実に雇用を創出してきました。それらの結果として、低炭素な社会を実現しつつ人口減少を解消することができています。

では、このような取組が可能になった理由は为什么呢。それは、村づくりのぶれないコンセプト、多数の住民の参加、専門性のある職員の存在、責任の所在の明確化、そして中間支援組織によるサポートなどが挙げられます。村の職員のマリオさんは「村の発展に必要なのはお金ではなく良質な人材である」と語っており、この言葉に私も大いに感銘を受けました。

■ まとめ

以上のように、温暖化対策は、そのみを中心に行うのではなく、地域課題の解決に温暖化対策の視点を組み合わせるのがよいように思います。そして、これを進めていくためには市民のアクティブ化が不可欠です。京都府地球温暖化防止活動推進員（以下、推進員）の方々のように、地域のことをよく知り、地域に豊富な人脈を持つ人が、低炭素型で魅力的な地域づくりには欠かせないと思います。今後の京都の取組に期待しています。



リフレかやの里の事例

京都府の北部、与謝野町内の静かな山の中にある「リフレかやの里」。地産地消のランチバイキングやハーブ湯（自家製ハーブも使用）を目当てに、多くのリピーターが訪れる施設です。宿泊棟もあり、遠方からのお客さんも訪れます。

この施設は、与謝野町が所有するもので、当初は第三セクターが、その後は地元の民間会社が指定管理者として運営していました。2008年に一旦閉鎖されてしまいましたが、地域からは復活を望む声が多く、その声に応えるべく立ち上がったのが「よさのうみ福祉会」でした。よさのうみ福祉会は町から指定管理者としての指定を受けて2011年にリフレかやの里の運営を開始。障害者の働く場所としても機能しています。



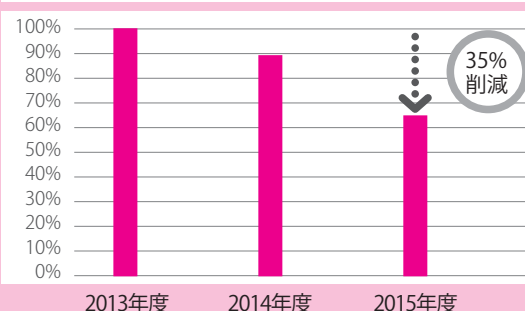
[リフレかやの里のホームページ]

リフレかやの里は、右ページにあるように、CO₂排出量削減に向けた取組を次々と実施しています。これを実現できる秘訣はどこにあったのでしょうか。支配人の藤原さんにお聞きすると、「温暖化防止センターのインタビューでこのようなことを言うのは何なのですが、正直言って、温暖化対策という意識はあまり強くないのですよ」と笑います。

「なんとか障害者に適正な賃金を支払える場を作りたい」。強い思いを持って運営する藤原さんの前に立ちはだかったのは、設備の維持管理費でした。とりわけ光熱水費はコストの大きな割合を占めることから省エネが必須だったとか。「なんとかコストを下げよう、魅力をアップさせようとあれこれ模索しているうちに、徐々にこうなってきた」のだそうです。

「温暖化をなんとかしなければ」と大上段に構えるのではなく、魅力ある地域づくりを再優先に考える。そこにこそ、ステキな低炭素地域づくりの秘訣があるのかもしれません。

リフレかやの里 CO₂排出量の推移（推計）



CO₂排出量を2年で35%削減！

年間CO₂排出量の推移を見ると、2年間で35%削減していることがわかります（※燃料別光熱費支払額・年毎の平均単価・年毎のCO₂排出係数から推計）。

電力のCO₂排出係数は上がっていた時期にも関わらずこの成果。グラフには現れていませんが、水道使用量も大幅削減されています。

地産地消
バイキング

お米は、地元与謝野町でとれた「京の豆っこ米」。地元の豆腐工場から出るおから、米ぬか、魚のアラなどからなる有機肥料を使ったお米です（うぉーみんぐNo.34参照）。野菜も、地元でとれた旬のもの。輸送やビニールハウスの暖房にかかるエネルギー消費を大幅削減できています。

「お越しの際には、与謝野ならではの食事を堪能してください!」



薪ストーブ

2011年の再オープンに向けて設置したもの。「天井が高いから、これがなかったらきっと暖房の効きが悪くてロビーが寒かったはず。冬場にはいつもお客さんが薪ストーブの周りで談笑しておられます」。「薪は、周りの山から自分たちで切り出し、障害者の方とともに一つひとつ手割りしたもの。山がきれいになると、山主さんからも喜んでいただいています」。



チップボイラー

与謝野町が地域の森林整備+山の恵みの有効活用のために2014年に設置。チップは、京丹後市にある丹後グリーンバイオから購入。与謝野町を含む丹後地域の木が燃料になっています。「以前は大変な量の重油を燃やしていました。チップボイラーになって、メンテナンスの手間は多少増えましたが、タンカーを使って運ばれてきた燃料をバンバン燃やしていたのに比べ、気持ちの面でも良いものです」。



節水シャワーヘッド
(シャワーの節水アダプター)

ホースと既存のシャワーヘッドの間にアダプターを取り付けることで節水（節湯）をはかるもの。空気とお湯を混ぜて出してくれるため、肌当たり柔らかなお湯をたっぷり楽しめます。「省エネ診断で提案されたのがきっかけ。数ヶ月のお試し期間で効果を確認すると、あび心地も問題なく、明らかな節水効果が確認できたので正式導入しました。1つ1万円くらいしますが、水道代だけで1年ほどで回収可能。おすすめです!」



LED照明

500Wの水銀灯9基を80WのLEDに更新。消費電力は1/6に減少し、寿命も長くなりました。照度もアップしています。「省エネ診断で提案されていましたが、初期投資がなかなか準備できずにいました。この度、町が予算をつけてくださり更新することができました。水銀灯は寿命が長くないため、度々交換が必要になり、そのコストが馬鹿になりませんでした。その分の手間とコストも削減できますのでありがたいです」。



<http://refre.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

リフレかやの里

検索

ぜひ「リフレかやの里」におこしください。



支配人
藤原さゆりさん



「省エネナビで電力の見える化。電気使用量10%削減」 「効果があった省エネ術を、多くの人に伝えたい」



今回はこの人/
中山彩子さん
(長岡京市)

賃貸マンションでもできる取り組み

2014年夏に、神奈川県から京都府長岡京市へ引っ越しをしてきた中山彩子さん。長岡京市の広報紙を見て“省エネナビ貸出事業”に申し込みをされました。

「引っ越し前から、もったいないなあと思って、省エネタップを使ったり、誰もいない部屋の電気は消したりしていました。引っ越しの際にも、LEDや節水シャワーヘッドを設置しました。その後、省エネナビモニターになり、さらに取り組んでみよう！という気持ちになりました」

本当は二重窓にしたかったけど賃貸なので出来なかった、という中山さん。「窓枠ごとプチプチシートで覆ったときに、窓とプチプチの間の温度が部屋側の温度と約6℃も違ったんです。びっくりしました」。ほかにも、カーテンを三重にする・玄関からの冷気を遮るビニールカーテンを設置する・ドアの下にすきま風防止テープを貼る・マンションの金属製のドアに発泡スチロールを貼る・段ボールとプチプチシートでカーテンボックスを自作するなど、冬に向けて、賃貸マンションで、しかもDIY以下の工作でできる工夫を探しました。「思ったらすぐに実行したくなるんです」。自らの経験を、省エネナビモニターの意見交換会で紹介されたそうです。

その後、長岡京市“ステップアップチャレンジ会議”の“省エネ推進チーム”に参加。2015年4月から京都府の推進員に委嘱されました。「省エネナビモニターの意見交換会や、ステップアップチャレンジ会議のミーティングで、いろいろな情報を知ることができます。最近では、推進員としていろいろと資料を送ってもらうので、良いなと思う資料をモニターさんへ紹介することも多いんです」と中山さん。

「今月のいちエコ」長岡京市広報紙に掲載

ちょっとした工夫でも省エネ効果があると実感すると、多くの人に伝えたいという中山さん。「広報



長岡京環境フェアで
活躍する中山さん

長岡京を見て、ページ上部に空白スペースがあるなあと思って。ここに省エネ情報を載せられないかなというアイデアを、当時の省エネナビ担当者に話しました。そうしたら、担当さんがすぐに広報担当と相談してくださって、“今月のいちエコ”という情報発信をすることになりました。今日からすぐに実践できるような取り組みを2～3行にまとめて、毎月1日号に掲載されることに。「内容は、季節のことも考えて、省エネ推進チームで話し合い決めています」。また、「いちエコレシビ」を作成され、省エネナビモニターさんへ、あるいはイベントや省エネ相談所などで配布されています。

もし、長岡京市の全世帯が取り組んだら…？

省エネナビで電力の見える化し、情報交換するなかで、参加モニターさんの電気使用量を平均して約10%も減らすことができたとのこと。もし、長岡京市の全世帯が、この取り組みをしたと仮定すると…？

長岡京市役所の方と一緒に、ざっくりと試算されたことがあるそうで、平成24年4月～平成25年3月までの長岡京市内の年間の電気使用量（※1）165,306,000kWhが10%削減された場合、電気料金だと年4億円以上（※2）もの節約効果となるそうです。

がまんや無理をすることなく、ムダなエネルギーを見つけて、快適性を保ちながら“上手に削減する余地”は、まだまだありそうです。

（※1）事業所を除いた一般家庭の使用量（街灯を含む）/長岡京市統計書
（※2）27円/kWhで計算した場合

● 夏休みのエコな取組たくさんあります。ぜひご参加ください！ ●

今年もみんなで一緒に取り組みましょう！
夏休み省エネチャレンジ

詳しくは } <http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/natsuyasumi.html>
コチラ



▲2016年度版冊子

2016年も、親子でチェックシートを使って夏休みの1週間省エネに取り組む「夏休み省エネチャレンジ」を実施します（京都府委託事業）。

昨年度は、147校、18,131世帯が参加。

4年生の女の子からは「**家族がまとまってよかった。ぜひまたエコのことについて考えていきたいなと思いました。**」といった感想が、1年生の保護者の方から「**エコに興味がないと思っていた息子が妹や弟に積極的に声かけしていたので意外な一面を見られておもしろかったです。**」といった声をいただきました。

また、自分たちが使っているシャワーのお湯の量を実際に計ったり、食べものの産地を調べたりする「もっとチャレンジ」を行うことで、より親子で省エネを身近に感じてもらえるきっかけになればと考えています。

個人や、子ども会などの地域グループでの申込も可能です。ぜひこの夏、家族で省エネ・節電にチャレンジしてみてください。

エネルギー工作教室を開催します

参加費はいずれも無料です！



	城陽市	向日市	けいはんな
講座名	夏休み親子工作教室 ～太陽光発電の電気を 貯めて夜に光る「ソーラ ーランタン」を作ろう～	環境市民講座 「親子で作って学ぼう！ 自然エネルギー！」	けいはんなエネルギー教室 「温暖化・再生可能エネルギー を学んで工作をしよう！」
日時	7月23日（土） 14時～15時30分	8月4日（木） 10時から12時	7月28日（木）/29日（金） 8月1日（月）/2日（火） いずれも 午前の部9時30分～12時（全8回開催） 午後の部13時30分～16時
場所	城陽市福祉センター ホール	向日市役所3階 大会議室	けいはんなe2未来まなびパーク （けいはんなプラザ ラボ棟）
対象	小学生とその保護者 （城陽市内在住、在勤）	小学生とその保護者 （向日市在住）	京都府内在住の小学生と保護者 ※原則4年生以上とします。
人数	定員15組（先着順）	定員15組（先着順）	午前の部・午後の部の各回25人（先着順）
内容	太陽光パネルできれいな 明りをつくろう。	太陽光パネルがのった 小さなお家を作ろう	地球温暖化や再生可能エネルギーについて学んだ後、太 陽電池を利用した工作等行います。実施回毎に工作する ものが異なりますので詳しくはWEBをご覧ください。
持ち物	筆記用具	筆記用具	なし
申込 窓口	城陽市環境課 電話 0774-56-4061	向日市市民生活部 環境政策課 電話 075-931-1111（代）	京都府地球温暖化防止活動推進センター 希望日時と参加者名、連絡先を電話、ファックス、 E-mailにてご連絡ください。 WEB http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/keihanna.html 電話 075-803-1128 FAX 075-803-1130 E-mail sanka@kcfca.or.jp まで

いずれも、京都府エネルギー政策課と当センターが連携してプログラムを提供します。

